

## 司法試験の問題に取り組む際の心構え（山本の私見）

### 〈合格ラインを超えるための心構え，基本編〉

- ①問いに答える（聞かれていないことは書かない）。
- ②問題文を勘違いしない（焦っているとミスしがち）。
- ③三段論法を守る（問題提起はしているか，理由なき規範を書いていないか，事実を適示し，評価しているか，あてはめは規範と一致しているか）。
- ④条文，条文の文言の指摘はしっかり行う。条文引用のない答案はあり得ない。
- ⑤配点通りの答案分量を意識する（自分の書くスピード，量を踏まえる。6頁が通常の起案量の場合で配点が4：6の時，2，4枚：3，6枚の分量にする）。
- ⑥時間的な目安を持つ（この問題なら，答案構成は〇時〇分まで，設問1は〇時〇分まで，設問2は〇時〇分まで）。
- ⑦時にはあきらめをつける（難しい問題に悩みすぎて，後の簡単な問題が解けないことは避ける）。
- ⑧問題文の事実を使えていないときは，自分の構成を疑え（誘導を無視するな）。

### 〈高得点を狙うための心構え：応用編〉

- ①問題文を読んだ瞬間，問題点，起案内容が浮かぶくらいになる（事前の判例基本書学習）。
- ②書きたい内容ではなく，出題者が書いてほしい答案を書く。
- ③百選判例の事案を思い出せるようにする。百選の事案と比較する意識。
- ④楽な問題，難しい問題を瞬時に見分ける（基本部分と応用部分の意識）。
- ⑤配点を意識し，時には浅く，時には長く。楽な問題ばかり長々と書かない（楽な問題を長々と書いても差がつかない）。
- ⑥難しい問題から逃げない（難しい問題に配点がある）。
- ⑦問題の特殊性に注意する。

### 自習する際の留意点（基本書，判例集との付き合い方を含む）

- ①各科目で穴を作らない（苦手を消す）。
- ②司法試験，予備試験を研究し，試験委員が望む合格者像，試験問題を予想する（例：基本的事項の深い理解を問う問題が望ましい。暗記すれば解ける問題は望ましくない）。
- ③裁判例は結論，規範と同じくらい，事実が重要。
- ④問題，答案を意識して基本書，判例集を読む（問題提起部分，規範定立，あてはめを意識して読む，無意識に読まない）。  
※学習初期の問題演習は，基本書，判例集を読みつつでもいい。
- ⑤問題の復習の際，基本書，百選は，当該問題の論点以外にも広く読む。